

『生活と文学』総目次

鳥羽耕史

はじめに

『生活と文学』は、一九五〇年十一月に創刊された『人民文学』と『新日本文学』の対立に最後の収拾をつけた雑誌である。『人民文学』は、一九五四年一月に『文学の友』と改題した後、一九五五年二月までに通巻五〇号と別冊第三集までを刊行したところでその活動を終えた。同年一月から、旧『人民文学』メンバーと『新日本文学』メンバーが合流する形で、しかし発行主体は新日本文学会として創刊されたのが『生活と文学』である。一九五七年三月までに三巻三号、一七冊を出して終刊し、新日本文学会への一本化が完了する形となった。

『人民文学』という雑誌の性格や問題については、拙稿『人民文学』総目次（『言語文化研究』二〇〇五年二月）、成田龍一「断層」の時代——一九五〇年代前半の歴史像への試み（『思想』二〇〇五年十二月）、道場親信・鳥羽耕史「証言と資料 文学雑誌『人民文学』の時代——元発行責任者・柴崎

公三郎氏へのインタビュー」（『和光大学現代人間学部紀要』二〇一〇年三月）、および近刊の拙稿『『人民文学』論』（『社会文学』二〇一一年二月）を参照されたい。雑誌自体も、不二出版より後雑誌『文学の友』を含めた復刻出版が開始され、ようやくその全貌が共有されるようになってきた。最初の拙稿『『人民文学』総目次』では、引き続き『文学の友』および『生活と文学』の総目次公開を予告していたが、『文学の友』はこの復刻版に含まれ、総目次と本文が閲覧可能になるため、ここではそれに続く『生活と文学』の総目次採録と公開を試みたい。

先に出版されていた『新日本文学』復刻縮刷版（第三書館、一九九三年）と総目次（『新日本文学』一九七六年六月号、および縮刷版の索引）に加え、『人民文学』『文学の友』の復刻版と本目次の活用により、一九五〇年代前半から中期にかけての文学運動や文化運動を立体的に把握することが可能になるはずである。

雑誌の概要

記事の内容やサークル運動との関係、雑誌の性格などの詳細については別稿を期す。ここでは雑誌の発行所・印刷所や価格などの点についてのみ解説しておく。印刷所を転々とし、住所を伏せたこともあった『人民文学』と異なり、『生活と文学』の発行所や印刷所は一貫している。「編集人 新日本文学会 野間宏」、「発行人 後藤彦十郎」、「発行所 百合出版株式会社」「印刷所 光陽印刷株式会社」は創刊から終刊まで変わっていない。編集人の「新日本文学会 野間宏」には創刊号では所在地表示がないが、一巻二号より東京都新宿区西大久保の一の四二五という番地が付されて終刊まで続く。百合出版は東京都神田神保町一の二、光陽印刷は東京都新宿区山吹町一九八で、これもずっと同じである。本文にグラビアはなく全てモノクロ、表紙は一巻二号と二巻一号のみ三色刷りであるが、後は全て二色刷りである。

雑誌の判型はA5判、創刊時は72頁・五〇円（送料八円）だったのが二巻一号で88頁・六〇円（送料八円）となるが、二巻二号で以前と同じ72頁・五〇円（送料八円）に戻し、二巻三号で64頁・五〇円（送料八円）にしてからは終刊まで同じである。創刊号より「日本国有鉄道特別扱承認雑誌第三一〇八号」の表記があり、二巻二号より「昭和三十一年一月十六日第三種郵便物認可」の表記が加わるが、送料に変動はない。

凡例

- ・ 本目次は、『生活と文学』一巻一号から三巻三号（通巻一七号）までの目次を、発行順に掲載したものである。
- ・ 表示項目は、上から著者名、タイトル、開始頁、終了頁となっている。別の頁に飛んで終了する記事の場合、読点に続けてもう一つの頁数を載せてある。
- ・ 表紙の画家名、頁数を明示していないカットの画家名がある場合は各号の冒頭に掲げた。創刊号より「日本国有鉄道特別扱承認雑誌第三一〇八号」の表記
- ・ 頁数のカウント方法は一貫しており、表紙の後すぐ1頁からはじまる形である。
- ・ 検索の便宜を図るため、末尾に人名・団体名索引を付した。外国人名も姓の五十音順で並べたため、例えばロベール・デスノスは「ロ」ではなく「デ」の位置にある。ハイフンの前が巻、後が号による巻号表記である。ただし、無署名のものは膨大になるため省略した。
- ・ 誌面の都合上、短歌・俳句・川柳や、投書欄の個々の著者名は省略した。なお、次のホームページで、『人民文学』も含めた詳細版データベースを公開する予定である。
<http://avant-garde-socialmovement.com>
- ・ 本稿は科学研究費補助金（基盤研究（〇））課題番号 21520193 による成果の一部である。

外村繁	書評	日本の良心の書―広津和郎著「松川裁判」	31	34
乾孝	新しい恋愛	生活のなかでの感情のはたらき	28	30
国分一太郎	こんなふうを書くな―文章の書き方(一)	―	23	27
藤島宇内	サークルの悩み	土曜会の場合	22	22
安芸節子他	俳句・句集「広島」より	―	20	22
かんばら	仮名ばかりの文	生活記録	16	19
山峰佳代	学童疎開のこと	生活記録	15	16
秋山照子	おもいで	生活記録	12	14
東和子	かせ場の人々	生活記録	10	12
登内常子	生活綴方と歌うこと話すこと	生活記録	9	9
洪孝一	みせばん	―	6	9
野間宏	生活綴方・記録と小説・文学(一)	―	4	5
中島健蔵	創刊のことば	―	2	3
無署名	目次	―	1	1
魯迅作・竹内好訳	「故郷」より	―	38	38
須崎弘	挿絵カセット	―	37	37
佐藤忠良	表紙 彫刻「オリエ」	―	36	36
昭和三十年十一月一日発行、定価五〇円(送料八円)	―	―	35	35
小松三千夫	本文72頁	―	34	34
生活記録・七篇	サークルの詩・七篇／創作	畔 柳二美	33	33
活綴方・記録と小説・文学	野間宏／新しい恋愛	乾孝／	32	32
一巻一号、表紙「新しい人間の心をつくる」	「11月創刊号」	「生活綴方」	31	31
評一	無署名	お願い	30	30
竹内好	生活記録と文学	このごろ思うこと	29	29
小堀杏奴	両方好きな事はない	このごろ思うこと	28	28
戸川エマ	人の顔	このごろ思うこと	27	27
亀井勝一郎	三つの感想	このごろ思うこと	26	26
瓜生忠夫	“母もの”の気焔	映画時評	25	25
なかの・しげはる	時評	洪水と軍事教練	24	24
伊藤一弘	工場の気持	―	23	23
竹田有佑	ある日―式場精神病院火災―	―	22	22
大藪治久	トラクター	―	21	21
多気正一	ヘルバイト	―	20	20
夏陽子	ラジオ組立工の時間	―	19	19
広野広	黄色い花	―	18	18
菅原克己	サークル誌作品月評	詩の仕事	17	17
下野薫他	俳句・句集「広島」より	―	16	16
島尾敏雄	民話	地蔵の耳	15	15
柿堺欣一郎他	短歌	―	14	14
藤原審爾	新しい民話について	―	13	13
アウグスト・ヒルト	長谷川四郎訳・解説	鑄造	12	12
畔 柳二美	若荷の子	―	11	11
小松三千夫	丸鋸たち	―	10	10
無署名	読者の皆さんへ	―	9	9

一卷二号、表紙「新しい人間の心をつくる」「特集 生活記録

・家（五篇）」本文72頁

昭和三十年十二月一日発行、定価五〇円（送料八円）

関合正明 表紙

島田澄也、須崎弘 挿絵カット

小熊秀雄 「労働のなかの愛」より

無署名 目次

川勝陽一 私の家 生活記録特集・家

日下部栄一 へそくり 生活記録特集・家

千倉あい子 父の失明 生活記録特集・家

張炳珠 私の家 生活記録特集・家

青石勉 私たちの研究 「家」とその周辺について

無署名 編集部から

長友マズ子 行商 詩

藤野昌子 富士 詩

橋本隆 手の地図 詩

三糸勘吉 せんたく 詩

山形県・村山文学同好会 短歌 基地のうた

菅原克己 サークルめぐり 町工場の書き手たち「油さし」

の実例から—

浅見淑子 小さい詩一 母／配達／卵／部屋

国分一太郎 筋道立てて書くには—文章の書き方（II）—

長谷川四郎 小説の仕事（月評にかえて）

32
33

29
31

28
28

26
28

25
25

24
24

23
22

22
22

21
21

19
21

11
19

10
11

7
10

4
7

2
3

1
1

野間宏 生活綴方・記録と小説・文学（二）

山川幸三 小さい詩二 仕事／火

なかのしげはる 見本市の豆 世間のはなし

針生一郎 本の案内 阿部知二著 歴史のなかへ

瓜生忠夫 国際的になった日本の女優？ 映画案内

飯島衛 漬け物と花 このごろ思うこと

遠藤周作 気胸 このごろ思うこと

加賀淳子 煙突長屋 このごろ思うこと

山ノ内羊子 汗の味 このごろ思うこと

小田嶽夫 捕虜のこと このごろ思うこと

久保田正文 写生と「ありのまま」

大山公正 恋愛と恋愛論 乾孝氏の論文「新しい恋愛」（創刊

号）を読んで

無署名 お願い

宮元和男 民話 たて稿の着物によこ稿のふせをするな「郷

土史ノート」から

保根川雅好 連載 あゆみ（二）

林昌子 長い道

編集部 小説および創作上の質問を募ります

無署名 読者通信

二巻一号、表紙「新しい人間の心をつくる」「特集 幸福につ
いて」本文88頁
昭和三十一年一月一日発行、定価六〇円（送料八円）

72
72

71
71

65
71

58
64

55
57

54
54

52
54

48
51

46
47

45
46

44
45

43
44

42
43

41
41

40
40

38
39

37
37

34
37

関合正明	表紙	渡辺みづほ、司会・瓜生忠夫、藤原審爾	34	
箕田源二郎	挿絵・カット	座談会	幸福とはなにか？	39
オ・ウイソツカヤ作詩、ア・レーピン作曲、矢川仰子訳詞		串田孫一	猫と自衛隊 このごろ思うこと	40
森のこだま（楽譜）		木下航二	原爆許すまじの出来るまで このごろ思うこと	41
無署名	目次			41
杉浦明平	幸福について	山口栄三	保守党代議士歓迎会 このごろ思うこと	43
ヴェ・エヌ・シャーツカヤ著、吉川昭三訳		井尻正二	中国はなぜきれいになったか このごろ思うこと	45
森のこだま（扉の歌詞）				45
浅野光子	チイちゃん 生活記録	編集委員会	おことわり	46
川村静枝	村のなか 生活記録	瓜生忠夫	逆立ち批評 映画の案内	46
無署名	二つの記録についてのこのサークルの討論	古沢太穂選	俳句	47
うえのふじ子	嫁入りから現在まで 生活記録	ボンボン・クラブ作	年末年始物語	48
サークル「壁」	サークルからの便り	馬渡博親	民話 寝太郎物語	48
中菌英助	療養者の文学―国立清瀬病院のサークル誌を中心	山田太郎	生き生きとした想像力を 「寝太郎物語」について	49
に― 私たちのサークルから				53
無署名	多喜二・百合子研究会	野間宏	生活綴方・記録と小説・文学（三）	55
なかのしげはる	地理と歴史 世間のはなし	無署名	こどもの詩	56
佐々木基一	書評 小島信夫「チャペルのある学校」／杉浦	吉川常子	なみだがたれてくる 1月の詩	57
明平「国境の海」		内堀和泉	中国見本市の紡績機 1月の詩	60
（克）	本のすいせん 世界の歌曲集	高野恵七郎	少女よ 1月の詩	61
（晋）	本のすいせん 作家の仕事（上）	なかのふみこ	女アンマの唄える 1月の詩	62
（E）	本のすいせん 今日の美術	たしろ・ようこ	坊やに日がてる 1月の詩	63
（四）	本のすいせん 限りなき困惑	さの・みつお	コオロギはカベのわれめで 「散文・子供詩	64
倉田裕、松井茂雄、早川崇、小森黎、山梨園子、木村悦郎、		集」より		65
				66
				67

保根川雅好	連載記録	あゆみ(二)	68	73
森田藤吉	ホース屋時代		74	82
永見恵	あとがき		82	82
長谷川四郎、箕田源二郎画	魚釣り		83	87
編集委員会	小説の実作指導について		87	87
無署名	読者のみなさんへ		88	88
二巻二号、表紙「新しい人間の心をつくる」	「サークルの人たちのために／人と人との新しいつながり 佐々木斐夫／地方小都市の主婦の意見 真田巖」	「紙上討論 農村の恋愛と結婚」	本文72頁	
昭和三十一年二月一日発行、定価五〇円(送料八円)				
佐藤忠良	表紙			
箕田源二郎	挿絵カット			
げ(箕田源二郎)	扉カット		1	1
無署名	目次		2	3
佐々木斐夫	人と人との新しいつながり	サークル運動は何を意味するか?	4	7
笠年魚	くびきり		7	7
真田巖	地方小都市の主婦の意見		8	10
無署名	農村の恋愛と結婚——「ミチューリン農業」の紙上討論会から		11	15
八島愛子	中継ぎ	生活記録	16	19
木村敏夫	結婚と家——幸福とは何か——	生活記録	19	23
川村直子	私の体験	生活記録	23	24
国分一太郎	気持ばかりで書くな、物事を書け	文章の書き	25	27
かた(3)			25	27
亀井勝一郎	建築と人間の心	世間のはなし	28	29
村雨退二郎	誰のために泣くか	このごろ思うこと	30	32
江間章子	生活のなから	このごろ思うこと	32	33
井上孝	梨ヶ原にて	このごろ思うこと	33	34
福田定良	学生生活の芝居	このごろ思うこと	34	35
野間宏	生活綴方・記録と小説・文学(四)——感情について		36	39
編集委員会	お願い		39	39
なかのしげはる	私の読みかた(第一回)	初期の藤村	40	42
(宇)	本のすいせん	日本人	43	43
(四)	本のすいせん	私の動物たち	43	43
(宇)	本のすいせん	数学のおもしろさ	43	43
(四)	本のすいせん	民話	43	43
野口清子	墓地	2月の詩	44	44
大津啓一	春の夜風	セツルメントの若き医師にささぐ	44	46
2月の詩			45	46
さいとう・まさを	三輪車	2月の詩	46	46
かとう・ななよ	ある未亡人のうたえる	2月の詩	47	47
ノナカ・ハタエ	花子は泣いてる	2月の詩	48	48
保根川雅好	連載記録	あゆみ(三)	49	55
戸嶋徹也	民話	お利美ゼキ	56	57

滝口雅子	おかしな物語	58	野間宏	生活綴方・記録と小説・文学(五)——感情の追求	13
菊池善保	松吉の顔	59	――		16
編集部	無題(批評と感想について)	65	無署名	時のうごき 日記・手紙・落書き帖	15
佐多稲子	「松吉の顔」について 批評と感想	66	石原健一	僕的一天 生活記録・五篇	17
藤原審爾	年の暮	68	無署名	時のうごき 文化活動をさらに前進させるために	20
無署名	通信とお答え	72	――私鉄総連		18
二巻三号、表紙「新しい人間の心をつくる」「サークルの中から外から／サークル運動の悩み えのき・たかし／私の見たきた地方のサークル 山田清三郎／特殊人にはなりたくない 藤島宇内」本文64頁		72	鈴木信行	お父さんを帰して下さい 生活記録・五篇	21
昭和三十一年三月一日発行、定価五〇円(送料八円)		72	山口茂男	私の結婚問題 生活記録・五篇	21
関合正明 表紙			無署名	時のうごき 文集(B5版一四七ページ)を發行	24
笑田源二郎 挿絵・カット			荒井智子	こども記 生活記録・五篇	24
無署名 扉カット		1	山田益子	私の仕事 生活記録・五篇	27
無署名 目次		2	ぼぶらの会	ぼぶらの会から サークル通信	28
えのき・たかし サークル運営のなやみ「さあ」の場合――サークルについて(中からの声・外からの眼)		3	編集委員会	各人の特色をのぼそう 生活記録・批評と感想	29
無署名 時のうごき 県内サークル交流をはかる		4	(克) 本のすいせん 詩を読む若き人々のために		30
山田清三郎 私の見てきた地方のサークル サークルについて(中からの声・外からの眼)		5	(喜) 本のすいせん 現代作詩辞典Ⅱ		31
藤島宇内 特殊人にはなりたくない サークルについて(中からの声・外からの眼)		6	菅原克己 生活の感動――サークルの言葉について		32
(勝) すべての覚に		9	無署名 時のうごき 三つの詩集		34
		12	山村暮鳥 そのこの梢のてっぺんで一羽の鴉がいない		34
		12	詩鑑賞		35
			菅原克己 解説 名詩鑑賞		35
			中谷時子 コンペヤートと私 3月の詩		36
			伊藤二三朗 大工のうた 3月の詩		37

池上徳三	俺たちのまわりはしずかだった 3月の詩	38	38
池井朔	噴射する指 3月の詩	38	39
長谷川四郎	私の読みかた(2)国木田独歩	40	42
大倉登代治	民話 白石・黒石・ざんざら石——生きてい	43	46
る石の話		43	46
(四)	本のすいせん ユダヤ人	45	45
中野泰	本(ほん)	47	57
無署名	作者の紹介／おしらせ	57	57
金達寿	「本」について 批評と感想	58	59
常滑文学サークル他	東西南北 読者の頁	60	64
二巻四号、表紙「新しい人間の心をつくる」「工場労働者と文			
学 谷川由起夫／全国サークル案内……「第一回」本文64頁			
昭和三十一年四月一日発行、定価五〇円(送料八円)			
無署名	表紙(中国の剪り紙)		
須崎弘	挿絵カット		
室生犀星	赤城山にて 名詩鑑賞2	1	1
無署名	目次	2	3
無署名	生活と文学・文芸時評 『太陽の季節』論争／批	4	5
評家無用論と作家の特権意識／モデルと作家の態度／ソ同		4	5
盟共産党第二十回退会と新聞報道		6	7
平田明子	私の絵 生活記録	7	7
平松光治	私の家 生活記録	7	10
森本一正	この頃の森本製作所	10	13
李春子	五万円の家 生活記録	13	14
泉桂子	朝鮮の旧正月に招かれて 生活記録	14	17
編集委員会	不幸は人間の心をひき裂けない 生活記録・批	18	19
評と感想		18	19
国分一太郎	物や事で書け 文章の書き方(4)	20	21
谷川由起夫	工場労働者と文学 文学の普及とサークルにつ	22	32
いて		22	32
無署名	時のうごき 広島の高イネ百年祭	32	32
宮元和男	民話 大浦田圃の蛙は鳴かない——郷土史ノ	33	35
・その二		33	35
(勝)	本のすいせん 赤い小馬	34	34
無署名	時のうごき 生活記録文集を発行	35	35
三枝すみれ	女工の詩 四月の詩	36	36
椎葉実生	キャツプランプ 四月の詩	36	37
山川幸三	入れ換えの中のおれたち 四月の詩	37	37
杉野健一	くじらの挨拶 四月の詩	38	39
井上頼豊	時のうごき ドン・コサック合唱団	40	41
(克)	農民詩集	40	40
(勝)	阿久正の話	41	41
世良絹子	台風の中の風たち	42	43
野間宏	生活綴方・記録と小説・文学(六)——続・感情の	44	47
追求一		44	47
石井哲也	硫酸工場(第一話)パイプスタンド	48	56
真鍋呉夫	テーマと構成 「パイプスタンド」について 批	48	56

評と感想	57	59	(憲)	機械のなかの青春	24	24
無署名	58	58	無署名	メーデーについて	25	25
磯子映画愛好会他	読者の頁	全国サークル紹介	森道之輔	詩はどのようにひろまったか——大井工場における八つのサークルの場合	26	33
・第一回	60	64	無署名	時のうごき 「ヤマビコ詩集」 発刊	33	33
二巻五号、表紙「新しい人間の心をつくる」「明るいメーデーの朝におくる／落書帳運動と文集づくり	近江絹糸の書く運動	小森孝児／詩はどのようにひろまったか	国鉄大井工場の八つのサークル	森道之輔」 本文 64 頁		
昭和三十一年五月一日発行、定価五〇円（送料八円）						
須崎弘	表紙		浅見淑子	私の手	五月の詩	37
須崎弘	カット		野間宏	生活綴方・記録と小説・文学（七）——続・感情の追究——		38
ヨハネス・ベツヒヤー、井上正蔵訳	勝利の祭日	1	井上正蔵	ベツヒヤーについて（扉詩参照）		42
無署名	目次	2	ギユヴィック、長谷川四郎訳	光		42
無署名	生活と文学・時評	映画『真昼の暗黒』／高村光太郎の死／小選挙区制と文化人	岩政光則	イノシシ狩りー民話風にー	44	52、59
小森孝児	らくがき帳運動と文集づくり	近江絹糸の書く運動	無署名	時のうごき	四氏の旅券	48
動		6	無署名	時のうごき	「沖縄文学の会」創立される	49
下山千代	母と娘と	生活記録	森さち子	小説	愛	53
瀬川清	絵のないまんが	生活記録	(宏)	本のすいせん	詩集「愛について」	57
鳥羽静子	母のこと・私のこと	生活記録	長谷川四郎	「愛」について	批評と感想	58
無署名	生活記録の投稿を募る		今井きよみ他	読者の頁		60
徳永直	私の読み方	書くことと書かないことと	志賀直	23	25	61
哉の文学について						62

榎木恭介 ロルカについて 46
 47

細野稔	小説	胎動	48	53
「生活と文学」編集委員会	原稿募集		53	53
藤原審爾	「胎動」について	批評と感想	54	55
マクシム・ゴリキ	高杉一郎訳	夏の夜	56	59
長谷川四郎	解説		59	59
無署名	時のうごき	「処刑の部屋」とG・ハメット	59	59
天沼文学会他	東西南北	読者の頁	60	64
	全国サークル案内(3)			
二巻七号、表紙	「ぼくらのサークルの歩み	三上耕雨／記録		
父の自殺	村沢宏／詩を書く働く人たちのために	花崎		
梶平／私の読み方(有島武郎)	西野辰吉／小説の批評と			
感想	野間宏／本文64頁			
昭和三十一年七月一日発行、定価五〇円(送料八円)				
高松甚二郎	表紙			
高頭祥八	カット			
中野重治	機関車	名詩鑑賞	1	1
無署名	目次		2	3
無署名	生活と文学	時評	4	5
「鍵」とジャーナリズム／参議院選挙と新聞報道			6	12
村沢宏	記録	父の自殺	13	15
西野辰吉	私の読みかた(4)	有島武郎	15	15
無署名	原稿募集			
増村由児	さまよえる記	記録	16	18
村田アコウ	におい	記録	18	19
佐野賢一	抵抗	記録	19	21
山口益子	おい立ちの記	記録	21	27
編集委員会	根気よく書きつづけよう	批評と感想	28	29
山本明(目次)	本のすいせん	松川裁判 第二	28	29
花崎梶平	詩を書く働く人たちのために	2 詩の生命	30	31
中菌英助	自伝の重み	「日雇いの歌」から	32	33
近江てるえ	支度部屋	7月の詩	34	34
沢杏子	かがら骨	7月の詩	34	35
川本明保	にんじんとごぼう	7月の詩	35	37
富沢慎作	小さな昼顔の咲く日	7月の詩	37	37
藪内智江	水仙の好きな女	7月の詩	38	38
長谷川四郎	本のすいせん	静かなドン	39	39
小林勝(目次)	本のすいせん	深い淵から	39	39
瓜生忠夫	貧乏の明暗	映画あんない	40	41
国分一太郎	しゃくぶく(折伏)	私の生産記録	42	42
無署名	中野重治の詩について(扉詩解説)		43	43
ギユヴィック	長谷川四郎訳	陳述 抄	44	45
長谷川四郎	無題(ギユヴィック解説)		44	45
戸石泰一	人間も文学も一樣ではない	文芸時評	46	47
理／スポーツ文学／職場から生れた小説			46	47
三上耕而	ぼくらのサークルの歩み	「ほのほ」から	48	52
ほ文学集団	へー			

林哲二 ささやかなる抵抗 53

野間宏 「ささやかなる抵抗」について 批評と感想 58

生活をつづる会他 東西南北 読者の頁 全国サークル案内 59

④ 編集室から 60

二巻八号、表紙「八月における特集／現地報告 この沖繩

与儀正夫／解説・沖繩の歴史を貫くもの 当間嗣光／記録

原爆に立つ男 久保辰雄／解説・日本人の真実追求の力

野間宏」本文64頁

昭和三十一年八月一日発行、定価五〇円（送料八円）

高松甚二郎 表紙

高頭祥八 カット

立原道造 のちのおもひに 名詩鑑賞5 1

無署名 目次 2

無署名 生活と文学・時評 文芸雑誌の赤字と軽文学／不

良少年映画の製作／アジア連帯文化使節団の帰国 4

与儀正夫 現地報告 この沖繩 6

当間嗣光 沖繩の歴史を貫くもの 15

今井初太郎 とんかち物語 私たちの記録 17

長谷川四郎（目次） 本のすいせん 私の音楽談義 19

山峯佳代 私の家のしあわせ 私たちの記録 20

無署名 立原道造の詩（扉） 21

無署名 海 長谷川四郎訳詩集 22

菅原克己 ブラザー軒 23

山岸外史 私の読み方第五回 太宰治の新しい読み方 24

久保辰雄 原爆に立つ男 28

野間宏 日本人の真実追求の力 「原爆に立つ男」を読ん

で 38

瓜生忠夫（目次） 本のすいせん 結婚の理想と現実 39

菅沼長吉 私の父 40

瓜生忠夫 干からびた太陽 映画案内 42

故落田草子 生きること 八月の詩 44

のざわ・きくお 五月 八月の詩 45

よしかわつねこ 誕生讃歌——あなたの誕生日に 八月の詩 45

内堀和泉 十年 八月の詩 47

久我要吉 シミ 八月の詩 48

鈴木創 詩を書く働く人たちのために 4

んへの手紙—— 詩と生活—Hさ 49

ロベール・デスノス、長谷川四郎訳 最後の詩 51

長谷川四郎 無題（デスノス解説） 51

上 司鏡子 ならの木の下 52

藤原審爾 「ならの木の下」について 批評と感想 59

黒田真左 京都土曜会のこと 東西南北 読者通信 60

久保秀雄 批評「父の自殺」を思う 東西南北 読者通信 62

無署名	サークル案内・関東(1)	東西南北	62	〃	63
無署名	編集部から		63	〃	63
無署名	編集室から		64	〃	64
二巻九号、表紙「特集・記録について／生活記録について 藤原審爾／記録 小説を中心として 野間宏／生活綴方・ 記録の文章 国分一太郎／教師としての立場 戸石泰一／ 絵画における記録性 利根山光人／ルポルタージュの方法 針生一郎」本文64頁					
昭和三十一年九月一日発行、定価五〇円(送料八円)					
無署名	表紙(建設中の佐久間ダム写真)				
無署名	カント				
中原中也	北の海 名詩鑑賞6		1	〃	1
無署名	目次		2	〃	3
無署名	生活と文学 時評 探偵小説・クイズ・太陽族文 化／なんのための芥川賞か／釈放戦犯と知識人		4	〃	5
藤原審爾	生活記録について 特集・記録について		6	〃	8
野間宏	記録(一)——小説を中心にして—— 特集・記録に ついて		9	〃	13
無署名	中原中也の詩について		10	〃	10
無署名	時のうごき 岸和田の「生活と文学の会」グルー プ		11	〃	11
国分一太郎	生活綴方・生活記録の文章 特集・記録につい て		14	〃	18
戸石泰一	彼女の場合——教師としての立場から—— 特集・記 録について		19	〃	24
(勝)	現代詩用語辞典		24	〃	24
無署名	けものたち・死者の時		24	〃	24
利根山光人	絵画における記録性——佐久間ダムを中心にして —— 特集・記録について		25	〃	29
針生一郎	ルポルタージュの方法(1) 特集・記録につ いて		30	〃	36
(四)	日記		36	〃	36
島田鸞	町工場 9月の詩		37	〃	38
丸木明子	洗濯女 9月の詩		38	〃	38
盛国学	ことば 9月の詩		39	〃	39
平野春作	バースデイ 9月の詩		39	〃	40
広野広	この歌を唄おう 9月の詩		41	〃	41
滝口雅子	詩を書く働く人たちのために われらに未来を		42	〃	43
瓜生忠夫	愛すればこそ 「オセロ」について 映画あんな い		44	〃	45
山田清三郎	松川事件現場調査団に参加して あれから7年		46	〃	51
ロベール・デスノス、榎木恭介訳	朝の星		52	〃	53
榎木恭介	ロベール・デスノスについて		52	〃	53
橋本勝三郎	新吉と茂の話		54	〃	61
常任編集委員会	「新吉と茂の話」について 批評と感想				

無署名 時のうごき 「猿」論争を呼ぶ 中国 62
無署名 編集室から 63
無署名 64

二巻十号、表紙「短篇小説特集号」本文64頁

昭和三十一年十月一日発行、定価五〇円（送料八円）

佐藤忠良 表紙 彫刻「朝倉撰さんの顔」

大塚睦 カット

「生活と文学」編集委員会／編集長 野間宏 短篇小説特集
をおくる 目次 1 3

無署名 生活と文学 時評 知識人の自由／徳永直の「草
いきれ」／日ソ交渉と新聞論調 4 5

椎名麟三 監房のなかで 6 9

斎藤芳郎 国境 10 12

なかのしげはる ヒサとマツ 12 14

庄司直人 寓話 14 16

玉井五一 キムチ・コッペー君の話 16 19

久鬼高治 靴 20 22

加賀淳子 草履取 22 25

野間宏 二つの花 25 27

山田清三郎 土地の瞳 27 29

関根弘 鉦山開発計画 29 31

宮坂幸子 ブリズン・サイド 31 34

中野秀人 一族殺傷 35

且原純夫 管 38

岡田憲一 教室 40

久保田正文 電車はゆつくりカーヴした 42

中野泰 牛にのつていった連太郎 44

黒田喜夫 ロマンセロ長靴 47

保根川雅好 ポスター 49

関義 枯葉 52

武田繁太郎 垣根越しの会議 54

吉良敏雄 新作・好人物の夫婦 56

長谷川四郎 函館の魚石^{うおいし} 59

菅原克己 立会人 63

二巻十一号、表紙「記録 野間宏／ルポルタージュの方法
針生一郎／私の読み方 フォークナーの方法 井上光晴」

本文64頁

昭和三十一年十一月一日発行、定価五〇円（送料八円）

佐藤忠良 表紙 彫刻「妙義の男」

大塚睦 カット

ギユヴィック、長谷川四郎訳 H 名詩鑑賞7

無署名 目次 2 3

無署名 生活と文学 時評 砂川で起こったこと／再び探

偵小説について／スポーツの秋／美術のシーズン

徳村操子 私の家 記録 6 8

小林利根男	私の父	記録	9	13
野間宏	記録(二)——小説を中心として——		14	18
無署名	時のうごき・中国演劇界の「百家争鳴」		15	16
無署名	本のすいせん 故国の人		19	19
徳納晃一	僕は君に約束する 広島の一つの星をめぐって		20	22
(四)	本のすいせん 夜と霧		21	21
無署名	本のすいせん だれにロシアは住みよいか		22	22
井上光晴	私の読み方 フォークナーの手法を中心に		23	25
生活と文学	編集委員会 原稿募集		25	25
岡田こずえ	小説 風のない日		26	30
大井川藤光	長谷川四郎訳詩集「海」		31	31
無署名	ギュヴィックの詩について(扉詩解説)		31	31
無署名	細胞生活		31	31
瓜生忠夫	純金のキャディラック 映画あんない		32	33
沢玲子	八月 11月の詩		34	34
木村日出夫	バンゴウ 11月の詩		35	35
洪允杓	鳩と空席 11月の詩		35	36
今大介	亀の子だわしについて 11月の詩		36	37
まの・すぎこ	胃がんで死んだじさ(じいさん)のこと		37	38
月の詩			37	38
福田清	「五三六」 11月の詩		39	39
清岡卓行	詩を書く働く人たちのために5 言葉になる前の		40	41
感動			40	41
針生一郎	性格と状況 ルポルタージュの方法(二)		42	44、30
横山肇	氷雨の中で 職場ルポルタージュ		45	47
大井川藤光	その人1		48	49
黒田喜夫	子供のたたかいから		50	51
小林勝	鮎(あゆ)		52	54
大平義敬	義歯		55	61
無署名	編集委員会ニュース		61	61
江口渙	「義歯」をすいせんする 批評と感想		62	63
(S)	編集室から		64	64
(K)	編集室から		64	64
二巻十二号、表紙「特集 労働者はどうにして文学を生み出そうとしているか」本文64頁				
昭和三十一年十二月一日発行、定価五〇円(送料八円)				
無署名	表紙写真 国鉄新鶴見操車場			
大塚睦	カット			
マザア	グウス、野上彰訳 ファイフの小屋に 名詩鑑賞8			
無署名	目次		1	1
野間宏	労働者の詩について		4	6
無署名	労働者はどのようにして文学を生み出そうとして		7	7
いるか			7	7
早乙女勝元	私のあゆみ 下街の故郷よりハモニカ工場まで			

塔ヶ原四郎	郵便汽車乗りの文学	8	13
岡本勉	一回的小説からの脱出	20	19
山川幸三	私の詩について	23	22
無署名	マザア グウスについて (扉詩解説)	25	25
荒巻重義	合点のいかぬこと	26	29
無署名	「秩父困民党」に毎日出版文化賞	29	29
無署名	小林勝『第一創作集』明年一月に出版	29	29
無署名	黒焼きと煎汁 (中国の話題)	29	29
福田玲三	いくつかの疑問	30	33
無署名	夢の中の日常	33	33
藻理可孝	生きる 十二月の詩	34	34
さいとう・つねお	火夫 十二月の詩	34	35
島田幾夫	その片隅 十二月の詩	35	36
佐々木実	富士山 十二月の詩	36	37
中島可一郎	詩を書く働く人たちのために 生活者の詩	38	39
とん助	俺らがおとーとおかーだ	40	42
浅見淑子	父	42	43
関川健	砂川	44	45
長谷川四郎	国民文化集會に参加して	46	47
モハメッド・ディブ	柁木恭介訳 アルジェリアの歌	48	49
無署名	解説	49	49
無署名	楽泉園から来た三つの短篇小説 まえがき	50	50
羽賀義雄	谿 (たに)	51	53
加藤三郎	荷車の足跡	54	57
加味信	法師蟬	58	63
無署名	編集後記	64	64
三巻一号、表紙「新春・世界文学の展望」	本文 64頁		
昭和三十二年一月一日発行、定価五〇円 (送料八円)			
渡辺泉	表紙写真		
中野秀人	カット		
八木重吉	「鞠とぶりの独楽」より 詩の鑑賞 9	1	1
無署名	目次	2	3
小笠原豊樹	雪を溶かすために 最近の世界文学の展望	4	8
丸山修吉	戦後アメリカの民主主義文学 最近の世界文学の展望	8	11
展望			
竹内実	偉大な空白——中国文学一九五六年—— 最近の世界文学の展望	11	15
文学の展望			
無署名	新刊紹介 小説の秘密——創作対談	15	15
増田義郎	最近のイギリス文学のうごき 最近の世界文学の展望	16	19
展望			
藤本淳雄	現代ドイツの文学 最近の世界文学の展望	19	21
(S)			
八木重吉の詩 (扉詩解説)		21	21
高橋洋夫	忌日 1月の詩篇	22	22
亀谷和子	山小屋 1月の詩篇	23	23

柏崎知哉	信頼	1月の詩篇	23	人／新聞	12		
内堀和泉	さようなら	1月の詩篇	24	野間宏	労働者の文学について	福田玲三「いくつかの疑問」を読んで	13
中浜富美子	朝のうた	1月の詩篇	25	向井準平	新築局舎の内部で	14	
盛国学	炭素の詩 ^{うた}	1月の詩篇	26	さえぐさ・すみれ	むかえ火	18	
佐々木実	畠	1月の詩篇	27	池井朔	はやく昏れる町	18	
秋直子	くらし		27	なかのひろし	豪雨	19	
小山鉄夫	サーヴィス向上月間	職場日記	31	北田弘	級の子	20	
宮前初子	子を泣かせてきて		43	志摩隆	吹雪	21	
広田国臣	機関車DX二五六五号		44	徳留徳	郵便局から	21	
橋本勝三郎	靴		46	(おくだいら)	「生理票」	22	
関義	胃ぶくろは売れない		47	岩田恒雄	ブルトーザ修理 ^{ママ}	23	
無署名	編集後記		49	中原伊沙子	常一番	24	
			50	山科愛子	ミス〇町	26	
			57	木村朝郎	松川被告の便り	28	
			63	鈴木信	松川被告の便り	29	
			64	今井哲郎	二まいのしようにとくたいしとぎぎ四つ	30	
			64	の歌	青空の下に	より	30
三卷二号、表紙「ルポルタージュ作家にされて	杉浦明平／			江波圭之介	用語	ニコヨンの歌	32
私の好きな文章	長谷川四郎・戸石泰一	本文64頁		大塚七郎	そのあさのうた	ニコヨンの歌	33
昭和三十二年二月一日発行、定価五〇円(送料八円)				宮坂忠広	バットからみのに	なった	33
川鍋正美	表紙写真「共同印刷」					ニコヨンの歌	33
中野秀人	カット					青空	33
無署名	目次						
山之口貌	炭	詩の鑑賞	1				
杉浦明平	ルポルタージュ作家にされて		3				
戸石泰一	くいちがい	私の好きな文章	4				
長谷川四郎	ぼくの好きな文章	私の好きな文章	7、				
無署名	こどもの詩	おれの母ちゃん／かわいそうな女の	8				
			10				
			12				

[illegible]

泉桂子

えのき・たかし

2
1
0

織田喜久

2

2

小田嶽夫	1 1/2	木村朝郎	3 1/2	こうだ・みのる	3 1/3
落田草子	2 8	木村悦郎	2 1/1	マクシム・ゴリキ	2 1/6
加賀淳子	2 10	木村敏夫	2 2	国分一太郎	1 1/1、1 1/2、2 1/2、
柿堺欣一郎	1 1	木村日出夫	2 11	2 1/4、2 1/7、2 1/9、3 1/2、	3 1/3
笠原絹子	2 5	ギョヴィツク	2 11	小林利根男	2 11
柏崎知哉	3 1	清岡卓行	2 11	小林勝(勝)	2 3、2 4、2 7、
且原純夫	2 10	吉良敏雄	2 10	小堀杏奴	2 9、2 11
加藤三郎	2 12	久我要吉	2 8	小松三千夫	1 1
かとう・ななよ	2 2	久鬼高治	2 10	小森孝児	2 5
上司鏡子	2 8	日下部栄一	1 2	小森黎	2 1
加味信	2 12	串田孫一	2 1	小山鉄夫	3 1
亀井勝一郎	1 1、	久保和友	2 6	今大介	2 11
亀谷和子	3 1	久保辰雄	2 8	サークル「壁」	2 1
川勝陽一	1 2	久保田正文	2 10	斎藤愛子	2 6
川鍋正美	3 2	久保秀雄	2 8	さいとう・つねお	2 12
川村静枝	2 1	倉田裕	2 1	さいとう・まさを	2 2
川村直子	2 2	黒河内隆	3 2	斎藤芳郎	2 10
川本明保	2 7	黒須つる子	3 3	三枝すみれ、さえぐさ・すみれ	2 4、
かんばら	1 1	黒田喜夫(喜)	2 11		
菊池節子	2 6	黒田真左	2 8	早乙女勝元	3 2
菊池善保	2 2	畔柳二美	1 1	坂本寛	2 12
北田弘	3 2	(K)	2 11	佐々木斐夫	3 3
木下航二	2 1	K生	2 6	佐々木基一	2 1、3 3
金達寿	2 3	洪孝一	1 1		

菅沼長吉	2 1 8	高橋洋夫	3 1 1	塔ヶ原四郎	2 1 12
白坂	3 1 3	高野惠七郎	2 1 1		3 1 3
庄司直人	2 1 10	高頭祥八	2 1 8	戸石泰一(泰)	2 1 6、 2 1 7、 2 1 9、
ヴェ・エヌ・シャーツカヤ	2 1 1	高杉一郎	2 1 6	ロベール・デスノス	2 1 8、 2 1 9
下山千代	2 1 5	祖田成利	3 1 2	モハメッド・ディブ	2 1 12
下野薫	1 1 1	世良絹子	2 1 4	鄭仁	2 1 5
志茂新吉	3 1 3	関根弘	2 1 10	張炳珠	1 1 2
島田薫	2 1 9	関義	3 1 1	千倉あい子	1 1 2
島田澄也	1 1 2	関川健	2 1 12	玉井五一	2 1 10
志摩隆	3 1 2	関合正明	2 1 3	谷川由起夫	2 1 4
島田幾夫	2 1 12	瀬川清	2 1 5	田中由紀子	3 1 3
島尾敏雄	1 1 1	生活をつづる会	2 1 7	立原道造	2 1 8
茂田柴	3 1 3	(晋)	2 1 1	たしろ・ようこ	2 1 1
椎葉実生	2 1 4	鈴木信	3 1 2	田坂とき	3 1 3
椎名麟三	2 1 10	鈴木創	2 1 8	たけのこ	2 1 5
沢玲子	2 1 11	鈴木信行	2 1 3	武田繁太郎	2 1 10
沢杏子	2 1 7		2 1 6	武田桂二郎	3 1 3
さの・みつお	2 1 1	須崎弘	1 1 1、 1 1 2、 2 1 4、	竹田有佑	1 1 1
佐野賢一	2 1 7	杉啓之(杉)	3 1 2、 3 1 3	竹内好	1 1 1
真田巖	2 1 2	杉野健一	2 1 1、 3 1 2	竹内実	3 1 1
佐藤弘子	3 1 3	杉浦明平	3 1 2	多氣正一	1 1 1
佐藤忠良	1 1 1、 2 1 2、 2 1 10、		3 1 3	滝口雅子	2 1 2、 2 1 9
佐々木実	2 1 12、 3 1 1	菅原克己(克)	2 1 3、 2 1 4、 2 1 6、 2 1 8、	高村光太郎	2 1 6
			1 1 1、 1 1 2、 2 1 1、	高松甚二郎	2 1 7、 2 1 8

登内常子	1 1 1	なかのひろし	3 1 2	長谷川四郎(四)	1 1 1、1 1 2、2 1 1
当間嗣光	2 1 8	なかの・ふみこ	2 1 1		2 1 2、2 1 3、2 1 5、2 1 6、
戸川エマ	1 1 1	中野泰	2 1 3、2 1 10		2 1 7、2 1 8、2 1 9、2 1 10、
土岐美智子	3 1 3	中浜富美子	3 1 1		2 1 11、2 1 12、3 1 2、
徳留徳	3 1 2、3 1 3	中原伊沙子	3 1 2	長谷川照子	3 1 3
徳永直	2 1 5	中原中也	2 1 9	はつなみ・ふみ子	2 1 6
徳納晃一	2 1 11	永見恵	2 1 1	花崎阜平	2 1 7
徳村操子	2 1 11	中村直彦	3 1 2	浜野まもる	3 1 2
常滑文学サークル	2 1 3	中谷時子	2 1 3	早川崇	2 1 1
戸嶋徹也	2 1 2	夏陽子	1 1 1	林哲二	2 1 7
利根山光人	2 1 9	西野辰吉	2 1 7	林直紀	3 1 3
外村繁	1 1 1	西山昭一	3 1 3	林真紀	3 1 2
鳥羽静子	2 1 5	野上彰	2 1 12	林昌子	1 1 2
富沢慎作	2 1 7	野口清子	2 1 2	原金治	3 1 3
とん助	2 1 12	のざわ・きくお	2 1 8	針生一郎	1 1 2、2 1 9、
長坂ひとみ	3 1 3	ノナカ・ハタエ	2 1 2	左晃	3 1 3
中島可一郎	2 1 12	野間宏(宏)	1 1 1、1 1 2、2 1 1、	平田明子	2 1 4
中島健蔵	1 1 1		2 1 2、2 1 3、2 1 4、2 1 5、	平野春作	2 1 9
中菌英助	2 1 1、2 1 7		2 1 6、2 1 7、2 1 8、2 1 9、	平松光治	2 1 4
長友マス子	1 1 2		2 1 10、2 1 11、2 1 12、	アウグスト・ヒルト	1 1 1
なかの・しげはる、なかのしげはる、		羽賀義雄	2 1 12	広田国臣	3 1 1
中野重治	1 1 1、1 1 2、2 1 1、2 1 2、	箱番吉	3 1 2	広野広	2 1 9
	2 1 7、2 1 10、3 1 3	橋本勝三郎	2 1 9、3 1 1	福田清	2 1 11
中野秀人	2 1 10、3 1 1、3 1 2、3 1 3	橋本隆	1 1 2	福田定良	2 1 2

福田玲三	2 12、	3 3	松井茂雄	2 1	森さち子	2 5
藤島宇内(字)	1 1、	2 2、	真鍋呉夫	2 4	森田藤吉	2 1
藤野昌子		2 3	まの・すぎこ	2 11	森道之輔	2 5
藤本淳雄	1 1、	1 2	丸木明子	2 9	森本一正	2 4
藤原審爾	2 1、	3 1	丸山修吉	2 1	矢川仰子	2 1
	2 6、	2 2、	馬渡博親	3 1	八木重吉	2 1
	2 8、	2 9	三糸勘吉	2 1	八島愛子	3 1
古沢太穂	2 1	2 1	三上耕而	1 2	矢田正雄	2 2
ヨハネス・ベツヒヤ	2 5	2 5	水原蓉子	2 7	藪内智江	3 2
編集委員会、常任編集委員会、「生活と文学」編集委員会	2 1、	2 2、	箕田源二郎	2 3	山川幸三	2 12
	2 4、	2 6、	宮坂幸子	2 2、	山岸外史	2 8
	2 10、	2 11	宮坂忠広	2 10	山口栄三	2 1
編集部	2 9、	2 10、	宮前初子	3 1	山口茂男	2 3
細野稔	1 2、	2 2	宮元和男	2 4	山口益子	2 7
保根川雅好	2 6	2 6	三好重之	3 3	山科愛子	3 2
	1 2、	2 1、	向井準平	3 2	山田清三郎	2 10
	2 10	2 10	村雨退二郎	2 2	山田太郎	2 1
ぼぶらの会	2 3	2 3	村沢宏	2 7	山田忠治	3 3
ボンボン・クラブ	2 1	2 1	村田アコウ	2 7	山田益子	2 3
洪允杓	2 11	2 11	山形県・村山文学同好会	1 2	山梨園子	2 1
前田貴代子	3 3	3 3	室生犀星	2 4	山ノ内羊子	1 2
マザア グウス	2 12	2 12	毛利三郎	3 3	山之口貌	3 2
証木恭介	2 6、	2 9、	藻理可孝	2 12	山峰佳代、山峯佳代	1 1、
増田義郎	3 1	3 1	盛国学	2 9、	山村暮鳥	2 8
増村由児	2 7	2 7		3 1		2 3

『生活と文学』総目次

山本明	2	7
与儀正夫	2	8
横山肇	2	11
吉川昭三	2	11
吉川常子、よしかわつねこ	2	11、
よしむらてるよ	2	8
吉本順子	3	3
李春子	2	4
笠年魚	2	2
ア・レーピン	2	1
魯迅	1	1
フェデリコ・ガルシア・ロルカ	2	6
渡辺泉	3	1
渡辺みづほ	2	1